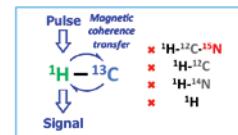


分子標的 MR イメージングのための新手法の開拓

[キーワード: 多重共鳴NMR, 分子プローブ, イメージング] 講師 山田久嗣

Selective Detection of Probe-¹H: Multiple Resonance NMR

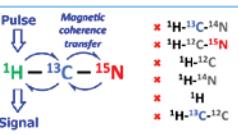
¹H-¹³C Double Resonance NMR



Natural abundance of ¹H-¹³C linkage:
100% (¹H) × 1.1% (¹³C) = 1.1%

Selectivity Factor = $1/(0.011) = "91"$

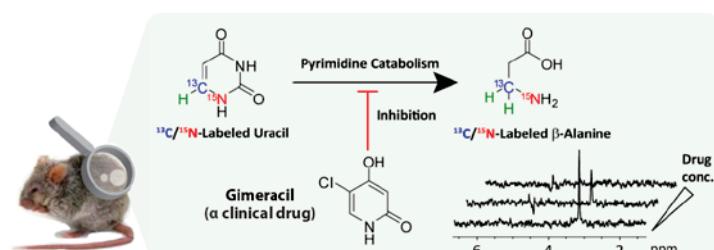
¹H-¹³C-¹⁵N Triple Resonance NMR



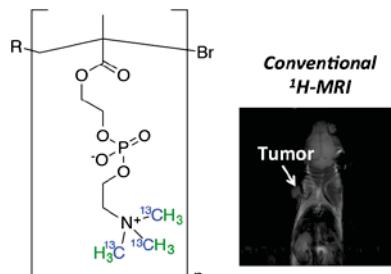
Natural abundance of ¹H-¹³C-¹⁵N linkage:
100% (¹H) × 1.1% (¹³C) × 0.37% (¹⁵N) = 0.004%

Selectivity Factor = $1/(0.011 \times 0.0037) = "25,000"$

The high specificity of 1D triple resonance NMR provides a sound basis for analysis of in vivo metabolic events and evaluation of drug activities.

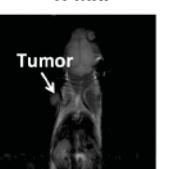


Stable-Isotope Labeled PMPC Nanoprobe Enables Unprecedented Molecular Probe-Targeted, Focal MR Imaging of Tumor

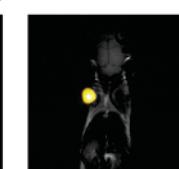


Stable-Isotope Labeled Polymeric Nanoprobe

Conventional ¹H-MRI



Molecule-Targeted focal ¹H-{¹³C} MRI



Merge

核磁気共鳴(NMR/MR)技術は、生体内の化学反応を“その場”・“そのままの状態”で解析可能な有望な手法である。しかしながら、従来の¹H NMR/MRIでは、生体内に膨大に存在する水や脂質中の¹H核由來のバックグラウンドノイズにより、“分子プローブ”的¹Hシグナルを選択的に検出することは不可能であった。そこで、我々は多重共鳴NMR法と多核多重ラベル化分子プローブに着目し、新しいMRイメージング法の開発に挑戦している。

最近、我々は、(1) 三重共鳴NMR法をin vivo代謝反応解析に応用して、抗がん剤の副作用発現に関連するウラシル異化代謝反応のその場解析に成功した。(2) 高感度化多重共鳴分子プローブとして安定同位元素集積化高分子プローブ(¹³C/¹⁵N-PMPC)を開発し、マウス肝臓組織抽出液中において、本プローブの¹H-{¹³C-¹⁵N}三重共鳴シグナルのみが選択的に検出されること、またそのシグナル感度がnMオーダーに達することを明らかにした。(3) 多重共鳴NMR法をMR画像化法に応用した結果、内在性ノイズシグナルを抑制し¹³C/¹⁵N-PMPCのみの多重共鳴MR画像化に成功した。

本研究の目標は、核磁気共鳴イメージング技術を応用し、「分子」を「標的」として観る新しい「分子標的MRI」の確立である。

分野: 生物分子科学

専門: ケミカルバイオロジー

E-mail: yamada.hisatsugu@tokushima-u.ac.jp

Tel. 088-656-7522

Fax: 088-656-7522